

deserve

～もったもである、受けるにふさわしい～

軽い雑談には相手にも入りやすいテーマを選ぶのが一番。中でもミュージカルは、欧米人との話題としてほぼ間違いなくストライクゾーンと考えて大丈夫です。ブロードウェイ（ニューヨーク）やウェストエンド（ロンドン）でロングランの作品や自分のお気に入りについては、コメントできるようにしておきたいですね。

ミュージカルの場合、映画と違って原題がそのまま日本語になっているものが多いですが、『オペラ座の怪人（The Phantom of the Opera）』『美女と野獣（Beauty and the Beast）』などは英語の原題も押さえておきましょう。

The outstanding production **deserved** this prestigious award.

傑出した演出がこの名誉ある賞を受賞するのはもったもですね。

deserve は「～を受けるに値する、～にふさわしい」という意味の動詞です。根底にあるのは納得感。deserve の前後にその対象が来ます。ここでは「受賞にふさわしい」となります。

The team deserved to win the match. といえば「チームは試合に勝つにふさわしかった→勝って当然だった。」という意味になります。

well-deserved が「～して当然の」という形容詞で使われている例です。すばらしかったので聴衆が総立ちになるのも納得できるというニュアンスです。

The stage director and casts received a **well-deserved** standing ovation.

演出家とキャストには、当然ともいえる総立ちの拍手が送られました。

同僚に向かって The promotion was well deserved. といえば「昇格して当然ですよ」となります。

The people voted Brexit, and they got everything they **deserved**, good and bad.

国民はブレクジット(英国の EU 離脱)に投票したということは、いいことも悪いことも全て受け入れたということなのです。

deserve はいいことばかりではなく、悪いことに対して「報いを受ける、当然の報いである」という意味でも使われます。例文は両方の意味で使われています。同様の用法で使うときは、誤解されないよう、対象が何かをはっきりさせるようにしましょう。

単語・熟語チェック

outstanding 傑出した、卓越した

prestigious 名誉ある

production 演出、上演

stage director (ミュージカルや劇の)演出家